

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	5
《本文》	7
《判定結果一覧表》	13

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

本学は大分大学憲章が示す目標を達成すべく、有為な人材の育成に努めるとともに、教育・研究・医療・社会連携への取り組みを通して特色ある大学づくりを目指し、もって総合大学としての機能の高度化や地域における「知の拠点」としての役割を果たす。

1. 知識基盤社会に求められる人材の育成

基礎的な学力に裏打ちされた高い専門知識とともに、柔軟な思考力と創造性を身に付け、知識基盤社会で活躍できる自立した人材の育成を目指す。時代や社会の要請及び学問の発展に対応した人材育成を行うために、教育研究組織の再構築を目指す。

2. 特色ある大学づくり

大学の個性化と高度化を目指し、大学院レベルの教育で目指す「高度の専門職業人養成」、学部レベルの教育による「幅広い職業人養成」、及び全学的な教育、研究、医療活動が役割を担う「社会への貢献」において、本学の特色を発揮する。本学が「ナショナルセンター」に相応しい実績を有する分野については、「世界的な教育研究拠点」を目指す。

3. 地域社会との共生・発展

大分県に立地する唯一の国立大学として、この地域における「知の拠点」として機能するとともに、地域の活性化に貢献する「リージョナルセンター」としての役割を果たす。

4. 発展を支えるマネジメント体制と安定した経営基盤の構築

運営体制の改革と安定した経営基盤の構築に努め、弾力的で効率的な大学経営の実現を目指し、質の高い管理運営組織を整備する。

本学は、大分高等商業学校、大分師範学校、大分青年師範学校を前身とする旧大分大学と旧大分医科大学の統合によって平成 15 年に発足し、教育学部（平成 28 年度に教育福祉科学部から改組）、経済学部、医学部、工学部の 4 学部と各学部を基礎とする 4 研究科並びに独立研究科である福祉社会科学部により構成されていたが、平成 28 年 4 月に福祉健康科学部を設置したことで、現在は 5 学部・5 研究科によって構成されている。

旦野原キャンパス（大分市旦野原）に教育学部・経済学部・工学部・福祉健康科学部、挾間キャンパス（由布市挾間町）に医学部、王子キャンパス（大分市王子新町）に附属学校園を配置し、3つのキャンパスは教育研究活動の展開に適した環境を備えている。

大分大学憲章（平成 16 年制定）には「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する」ことを基本理念として掲げており、21 世紀における知識基盤社会で活躍できる自立した人材を育成し、地域の拠点大学として地域社会とともに発展し、これらを通じた特色ある大学づくりを目指して主に次の諸事業に取り組んでいる。

1. 知識基盤社会に求められる人材の育成

学問探検ゼミを核にした高大接続教育の実施や導入・初年次教育の充実、全学共通教育科目の主題別体系化により、大学入学時から教育課程へのスムーズな移行を図り、基礎学力の確保と学習意欲増進に取り組んでいる。さらに、キャリア教育推進会議を立ち上げ、地域連携型キャリア教育の充実や生涯学習接続ネットワークの形成に取り組んで

いる。また、図書館の増改修に伴う学習支援ブースなどの新たな学習環境の整備や、ソーシャルワーカー等の専門家による相談室「ぴあ ROOM」等、学生支援体制を整えている。

2. 特色ある大学づくり

高度専門職業人養成については、平成 28 年 4 月に教育学研究科に新しく教職開発専攻（専門職学位課程）を設置するとともに、多様化する産業界のニーズに柔軟に対応するため工学研究科博士前期課程の改組を行った。

幅広い職業人養成については、体験活動等を組み入れた授業、インターンシップやキャリアカウンセリングを組み込んだ授業などを実施している。さらに、本学の強み特色を最大限に発揮できる「医療」「福祉」「心理」の分野を融合し、「地域包括ケア」を実践できる人材を養成することを目的とした福祉健康科学部の設置、小学校教員養成に重点化した教育学部への改組を平成 28 年 4 月に実施した。加えて、地域の産業社会で「組織のイノベーション力強化」に携わる人材の育成を目的とした事業共創学科を経済学部を設置し、理と工で紡ぐ地域産業を支えるイノベーション創出と人材養成を目的として工学部を理工学部へ改組することとしている。

社会への貢献については、高等教育開発センターを中心とした公開講座、全学研究推進機構を中心とした東九州メディカルバレー構想推進事業に関連したセミナー、福祉社会科学部を中心とした福祉フォーラム等を開催し、特色を発揮している。

3. 地域社会との共生・発展

大分高等教育協議会を平成 23 年に設立し大分県下の高等教育機関の間での教育連携を進め、学生の幅広い視野の育成に向けた機会を提供し地域の活性化に貢献している。大分県及び県下全市町村とも包括協力協定を結ぶとともに、ステークホルダー・ミーティング、「学長と語ろう」の会、高等学校との連携会議等を継続的に開催し、地域から求められる意見を大学運営に反映させている。

また、高度かつ有為な地域人材の育成、地域の雇用創出と就職率向上を目指した「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」が地（知）の拠点大学による地方創成推進事業（COC+）に採択され、教育プログラムの開発に着手している。

[個性の伸長に向けた取組]

地方の時代、地方の創生が我が国の最も重要な課題とされる中、大分県とそれを取り巻く地域が抱える課題に向けた取組に対して、中核的拠点である本学が最大限のコミットメントを行い、これを達成するため、第 3 期中期目標期間においては、「社会が求める高い付加価値をもった人材の養成」「地（知）の拠点としての機能の高度化」「新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学の経営の実現」という 3 つのビジョンを掲げ、その推進を図ることとしている。第 2 期中期目標期間に実施した「高大接続」「キャリア形成教育」「組織的な学生相談体制」「地域社会との交流」「教育実施体制の再構築」の取組は、個性の伸長に向けた取組として第 3 期中期目標期間に掲げる次のビジョンへと繋がっている。

1. 社会が求める高い付加価値をもった人材の養成

- 高大接続等のさらなる推進により、十分な基礎学力を有し、大学での学習・研究意欲が高く目的意識が明確である学生の確保を図る。

（関連する中期計画）計画 1-1-2-1〔3〕

- 高度な専門教育と学際的教育による幅広い視野・科学的想像力を涵養し，社会が求める新しい価値を生み出す人材を養成する。これを達成するために，高度な教養教育と専門教育の有機的な連携を図る。
(関連する中期計画) 計画 1-1-2-3 [5]
- 学生が健康的で十分にその能力を発揮できるよう，福利厚生充実，経済的支援を図るとともに心身の健康管理体制のさらなる充実を図る。
(関連する中期計画) 計画 1-3-3-1 [24]
- 2. 地(知)の拠点としての機能の高度化
 - 多様なパートナー(高等教育機関，行政，地域組織，NPO など)と連携協働し，地域を支える地域創生に貢献する。
(関連する中期計画) 計画 3-1-2-3 [38]
- 3. 新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学の経営の実現
 - 学長の強力なリーダーシップ体制を実現し，学内資源の効率的かつ効果的な活用に努め，大学の機能的・機動的運営を行う。
(関連する中期計画) 計画 1-2-3-1 [16]

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

義援金の寄付，学内にストックしている備品等の送付，学生による街頭募金活動のほか，下記のとおり医療支援等を行った。被災地域の学生の修学・就職・研究支援を行うため平成 22 年度に危機対策本部を設置し，他大学を含む被災者に対して，本学学生と同等の図書館サービスの提供，就職活動支援，特別研究学生としての受入れ，研究スペースの提供等可能な限り柔軟に対応することとし，ボランティア活動による授業の欠席・休学についても，修学上の配慮を行い，工学部の学生が，公益社団法人社会貢献支援財団の平成 24 年度「東日本大震災における貢献者表彰」を受賞した。

また，経済的に修学が困難になった本学学生に対して，「大分大学学生支援特別給付奨学金」を創設し，平成 24 年度の入学料免除及び入学後 1 年間(在学生は平成 24 年度前後期)の授業料免除を実施し，受験生の入学検定料を不徴収とした。

(平成 23 年度)

- ・九州山口薬剤師会合同チーム派遣 宮城県 1 回，薬剤師 1 名
- ・避難所における心のケア 岩手県 6 回，医師 1 名
- ・緊急被ばくスクリーニング検査支援 福島県 7 回，医師 1 名，放射線技師 1~2 名
- ・日本小児科学会による医療支援 岩手県 2 回，医師 1 名
- ・全国医学部長病院長会議九州地区からの医療支援 福島県 1 回，医師 1 名

(平成 24 年度)

- ・日本小児科学会の東日本大震災被災地支援事業 医師 1 名
- ・国立大学協会「被災地における理科支援事業～全国大学技術組織連携による「出前おもしろ実験室」プロジェクト～」工学部技術部 2 名

また，大分県に被害をもたらした九州北部豪雨災害についても次のとおり対応した。

- ・九州北部豪雨災害により家族等が被災した本学の入学生，在学生に対し入学料及び授業料免除の実施にあたり特別枠を設けて経済的支援を行った。
- ・平成 24 年 7 月 21 日に災害ボランティア学生 56 名，教職員 3 名を大分県中津市及び竹田市へ派遣した。大学としての正課外の社会貢献活動として位置付け，教員の帯同，移動手段(大学所有のバス)の支援，保険代，飲食物の支援及び消耗品等の負担を行った。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、大分大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好			4	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	3	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			4	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好			2	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			3	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			2	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 平成 24 年度から 8 分野において高大接続教育事業を実施している。例えば、ビジネスや地域づくりに関するユニークなアイデアを募集する「高校生なるほどアイデアコンテスト」では、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に 60 件の入賞作が出ており、入賞者のうち 12 名の学生が大分大学に入学している。また、接続学習プログラムの一つである「基礎数学補習」の受講生は、工学部の必修科目「基礎数学」の試験において、不合格者はおらず、最も評価の良い S の獲得者が 46% に達するなど高い成績を残している。（中期計画 1-1-2-1）
- 大学の特色や強みである医療、福祉及び心理の分野を融合し、地域包括ケアを実践できる人材を養成することを目的とした福祉健康科学部の平成 28 年度設置に向けた準備を進めている。併せて、教育福祉科学部を小学校教員養成に重点化した教育学部へ改組し、教職開発専攻（専門職学位課程）を設置するなどの教育組織の見直しを行っている。（中期計画 1-2-3-1）
- 平成 24 年度にぴあ ROOM 規程を制定し、精神科医、臨床心理士、ソーシャルワーカー等の専門家による組織的に学生相談を行う体制を構築している。また、平成 26 年度から学習面の相談体制を充実させるため、学生チューターを 4 月から派遣可能にしたこと等により、チューターの月平均の活動時間数は、平成 26 年度の 42.4 時間から平成 27 年度の 68.2 時間へ増加している。（中期計画 1-3-3-1）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 義援金の寄付、学内にストックしている備品等の送付、学生による街頭募金活動のほか、下記のとおり医療支援等を行った。被災地域の学生の修学・就職・研究支援を行うため平成 22 年度に危機対策本部を設置し、他大学を含む被災者に対して、大分大学の学生と同等の図書館サービスの提供、就職活動支援、特別研究学生としての受入れ、研究スペースの提供等可能な限り柔軟に対応することとし、ボランティア活動による授業の欠席・休学についても、修学上の配慮を行い、工学部の学生が、公益社団法人社会貢献支援財団の平成 24 年度「東日本大震災における貢献者表彰」を受賞した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○高大接続教育事業の推進

中期目標（小項目）「幅広い職業人養成」及び「高度の専門職業人養成」の機能向上を目指し、学生が確実に成長する学士課程教育、修士課程教育及び博士課程教育を行う。」について、平成24年度から8分野において高大接続教育事業を実施している。例えば、ビジネスや地域づくりに関するユニークなアイデアを募集する「高校生なるほどアイデアコンテスト」では、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に60件の入賞作が出ており、入賞者のうち12名の学生が大分大学に入学している。また、接続学習プログラムの一つである「基礎数学補習」の受講生は、工学部の必修科目「基礎数学」の試験において、不合格者はおらず、最も評価の良いSの獲得者が46%に達するなど高い成績を残している。（中期計画1-1-2-1）

(特色ある点)

○キャリアプロジェクト演習の実施

中期目標（小項目）「幅広い職業人養成」及び「高度の専門職業人養成」の機能向上を目指し、学生が確実に成長する学士課程教育、修士課程教育及び博士

課程教育を行う。」について、文部科学省の大学生の就業力育成支援事業に「持続的就業力を育む地域連携型キャリア教育」が採択され、推進事業としてキャリアプロジェクト演習を実施している。また、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に採択され、NPO 法人や地域の企業と連携してインターンシップを組み込んだ授業「経営分析論Ⅰ、Ⅱ」等やキャリアカウンセリングを組み込んだキャリア形成に関する科目「応用化学入門」、「中級演習」、「専門演習」等を開発・実施している。（中期計画 1-1-2-3）

（２）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のうち、１項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○社会の要請等に対応した教育実施体制の見直し

中期目標（小項目）「教育目標に応じて、既存組織の改組を含む教育実施体制の再構築を推進する。」について、大学の特色や強みである医療、福祉及び心理の分野を融合し、地域包括ケアを实践できる人材を養成することを目的とした福祉健康科学部の平成 28 年度設置に向けた準備を進めている。併せて、教育福祉科学部を小学校教員養成に重点化した教育学部へ改組し、教職開発専攻（専門職学位課程）を設置するなどの教育組織の見直しを行っている。（中期計画 1-2-3-1）

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○組織的な学生相談体制の構築

中期目標(小項目)「組織的な学生相談体制を発展させる。」について、平成24年度にぴあ ROOM 規程を制定し、精神科医、臨床心理士、ソーシャルワーカー等の専門家による組織的に学生相談を行う体制を構築している。また、平成26年度から学習面の相談体制を充実させるため、学生チューターを4月から派遣可能にしたこと等により、チューターの月平均の活動時間数は、平成26年度の42.4時間から平成27年度の68.2時間へ増加している。(中期計画 1-3-3-1)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○工学部・工学研究科における科学研究費助成事業の採択支援

工学部・工学研究科において、科学研究費助成事業の申請を支援するため、平成22年度にワーキンググループを設置し、申請書作成についての情報交換会、申請書の事前チェック等に取り組んだことにより、科学研究費助成事業の採択率は第1期中期目標期間(平成16年度から平成21年度)の平均27.0%から第2期中期目標期間の平均40.6%へ向上している。(現況分析結果)

○工学部・工学研究科における研究の推進

工学部・工学研究科において、1,000万円を超える外部資金の受入件数は、第1期中期目標期間の5件から第2期中期目標期間の21件へ増加している。

(現況分析結果)

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標**1. 評価結果及び判断理由**

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況**(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標**

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

○公開講座・公開授業の推進

中期目標(小項目)「地域社会及び国際社会に開かれた大学として、地域社会、産業界、地方自治体及び国内外の大学との多様な連携・協力・支援関係を強化し、社会貢献を充実させるための体制を整備する。」について、公開授業の拡充、社会人対象の公開講座「豊の国学」への各学部からの講座の実施等により、公開講座及び公開授業の受講者数は、第1期中期目標期間の約3,380名から第2期中期目標期間の約5,750名へ増加している。また、社会人等の指導者養成の取組として協育アドバイザー養成講座を開催し、平成22年度から平成26年度に約110名が受講している。(中期計画3-1-2-2)

(特色ある点)

○地域創生への貢献

中期目標(小項目)「地域社会及び国際社会に開かれた大学として、地域社会、産業界、地方自治体及び国内外の大学との多様な連携・協力・支援関係を強化し、社会貢献を充実させるための体制を整備する。」について、地域連携担当コーディネーターによる年2回の自治体訪問・意見交換、防災シンポジウムの実施等により、地域への情報提供を行っている。また、平成27年度に文部科学省の地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に採択された「地域と企

業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」を実施するため、参加大学の学長、県知事及び各団体・企業の責任者から構成されるおおいた創生推進協議会を設立し、地域のニーズ対応に取り組んでいる。（中期計画 3-1-2-3）

（2）国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
アドミッション・ポリシーに応じた優れた学生を確保する。		おおむね良好	
1-1-1-1	高等学校の学習成果と学士課程教育に必要な能力・適性を適切に把握・評価する入学者選抜を行う。（学部）	おおむね良好	
1-1-1-2	学士課程での学習成果、並びに高度専門職業人及び研究者に必要な能力・適性を適切に把握・評価する入学者選抜を行う。（大学院）	おおむね良好	
「幅広い職業人養成」及び「高度の専門職業人養成」の機能向上を目指し、学生が確実に成長する学士課程教育、修士課程教育及び博士課程教育を行う。		おおむね良好	
1-1-2-1	本学と高等学校との連携を通じて、高等学校教育と大学教育の接続方法等を充実させる。（学部）	非常に優れている	優れた点
1-1-2-2	導入・初年次教育を中心として、コミュニケーション能力等を含むアカデミックスキルの向上を図り、外国語能力の養成などの国際性の涵養を含む教育の改善・充実を進める。（学部）	おおむね良好	
1-1-2-3	養成すべき人材像を踏まえ、全学共通教育とキャリア形成教育を体系的に関連付けた専門教育を充実させる。（学部）	おおむね良好	特色ある点
1-1-2-4	社会人・留学生などの多様な学習履歴を踏まえたコースワーク（専門的知識、関連領域及び研究技法に関する教育）と論文作成指導及び学位論文審査を体系化したカリキュラム編成を行う。（大学院）	おおむね良好	
1-1-2-5	各研究科の定める教育目標に応じて、認定資格教育、研究企画・管理能力と教育力の育成等の教育プログラムを充実させる。（大学院）	おおむね良好	
学習への動機付けと意欲の向上に資する教育方法と研究指導を推進する。		おおむね良好	
1-1-3-1	学生が主体的に学習に参画する双方向的な教授方法（アクティヴ・ラーニング）、学習への動機付けの深化を図る実社会体験学習等の教授方法の開発・導入を進める。（学部）	おおむね良好	
1-1-3-2	多様なメディアを活用し、授業形態の多様化を図るとともに、自由な学習機会の拡充を進める。（学部）	おおむね良好	
1-1-3-3	複数教員による研究指導、国内外の学会参加等の多様な指導方法を積極的に導入する。（大学院）	おおむね良好	
学生の成長過程を検証し、教育成果を向上させる。		おおむね良好	
1-1-4-1	厳格な単位制度、授業の到達目標と評価基準の明示を一層徹底し、学習成果の達成度をより適正に把握する評価方法を策定する。（学部・大学院）	おおむね良好	
1-1-4-2	各研究科の教育目標に応じた学位取得プロセスを整備し、明示する。（大学院）	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
学生の成長を目指す教育実施体制を充実させる。		おおむね良好	
1-2-1-1	大学全体の教育力を生かして、全学共通教育の実施体制を一層充実させる。	おおむね良好	
1-2-1-2	国内外の大学連携等を推進することにより、教育実施体制を充実させる。	おおむね良好	
教員の教育力向上のために、効果的なFD等の組織的な取組を推進する。		おおむね良好	
1-2-2-1	全学教育機構を中心として、FD研修会等を定期的かつ継続的に企画・開催し、教材・学習指導法等の改善と充実を進める。	おおむね良好	
教育目標に応じて、既存組織の改組を含む教育実施体制の再構築を推進する。		良好	
1-2-3-1	時代と社会の要請、学問の発展に対応した人材育成を行うために、入学定員の見直しを含め既存組織の改組等、教育実施体制（教養教育実施組織、学部・大学院・センター等）の再構築を行う。	良好	優れた点
学術情報拠点を中心に、新しいサービスモデルを形成し学習・教育・研究を支援する。		おおむね良好	
1-2-4-1	学術情報拠点を中心に情報の利用環境を整備するとともに、情報の利活用を支援する体制を整備する。	おおむね良好	
1-2-4-2	図書館と情報処理センターの機能を併せ持つ学術情報拠点の特色を生かした学習・研究支援環境を整備する。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
豊かなキャンパスライフのための環境整備を行う。		おおむね良好	
1-3-1-1	図書館、学生ラウンジ、情報ネットワーク等、自学自習のための環境整備を推進する。	おおむね良好	
1-3-1-2	食堂スペースの拡充、学生寮の充実等、キャンパス内生活環境を改善する。	おおむね良好	
学生生活支援を教育の一環と位置づけ、積極的かつ多面的に推進する。		おおむね良好	
1-3-2-1	大学独自の奨学金制度を設立するとともに、入学料・授業料免除制度を充実させる。	おおむね良好	
1-3-2-2	障がいのある学生に対する支援体制の充実と環境整備を包括的に推進する。	おおむね良好	
1-3-2-3	外国人留学生に対して、学生の特性・個性に応じた就職支援等を行う。	おおむね良好	
組織的な学生相談体制を発展させる。		おおむね良好	
1-3-3-1	精神科医、臨床心理士、キャンパス・ソーシャルワーカー、産業カウンセラー等の専門家による組織的な学生相談体制を充実させる。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	1-3-3-2	就職・進路の個別指導と支援を学部等と全学的組織が協働して実施する。	おおむね良好	
	学生の共同参画を進め、正課外教育を充実させる。		おおむね良好	
	1-3-4-1	大学開放事業等の大学行事において、学生の参画を積極的に進める。	おおむね良好	
	1-3-4-2	課外活動施設・設備を充実させ、それを活用したサークル活動やボランティア活動及び学生による地域交流事業を活性化させる。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			おおむね良好	
持続性のある基盤研究を創生し、重点的に取り組む領域について、国際的視野での独創的・先導的な研究を推進する。			おおむね良好	
	2-1-1-1	全学研究推進機構を軸として、環境科学、福祉科学、生命科学及び複合新領域の学問分野における独創的・先導的研究を推進する。	おおむね良好	
社会、とりわけ地域社会・国際社会と連携した研究を創出するための体制を整備する。			おおむね良好	
	2-1-2-1	イノベーション機構を一層充実させるとともに、研究相談等の窓口機能を強化する。	おおむね良好	
	2-1-2-2	研究成果を国内外に向けて積極的に情報発信するとともに、社会への研究成果の還元を推進する。	おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
競争的環境に対応できる研究実施体制の強化のため、若手研究者等の人材育成の目的を含めた研究支援方法などを確立し、研究の質の向上に取り組む。			おおむね良好	
	2-2-1-1	学部・研究科の枠を超えたプロジェクト研究を推進できる研究実施体制を整備し、迅速で効果的な研究成果を得るため、学内外の若手研究者等の研究員を活用するとともに、必要な環境整備及び研究費獲得のための支援を推進する。	おおむね良好	
学術研究の動向等に応じて、先進的研究推進のための環境を整備する。			おおむね良好	
	2-2-2-1	部局の基盤研究を連携・融合し、全学研究推進機構での研究実施体制を強化する。	おおむね良好	
研究成果を還元するため、効率的・効果的な実施体制の見直しにより、具体化を推進する。			おおむね良好	
	2-2-3-1	大学の技術シーズと産業界ニーズのマッチングを促進するための情報提供、教員と企業等との共同研究や受託研究のコーディネーション活動、企業等に対するコンサルティング活動を通して、知的財産の創出・権利化を進めるとともに、知的財産に対する意識を更に高める取組を組織的に推進する。	おおむね良好	
	2-2-3-2	ベンチャービジネスの新たな展開となる独創的研究と教育を推進する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
地域における学術情報の拠点として、地域社会に貢献できる情報発信サービスを提供する。		おおむね良好	
3-1-1-1	学術情報拠点を通して、本学が生産または所有する学術情報を地域や社会に積極的に提供する。	おおむね良好	
地域社会及び国際社会に開かれた大学として、地域社会、産業界、地方自治体及び国内外の大学との多様な連携・協力・支援関係を強化し、社会貢献を充実させるための体制を整備する。		おおむね良好	
3-1-2-1	大学開放事業などを継続的に進め、また、各種の事業において、学生との協力関係を構築するとともに、各部局や全学で実施する県民対象事業等の大学開放事業を推進する。	おおむね良好	
3-1-2-2	全学教育機構を中心として、公開講座・公開授業等の大学開放事業に総合的に取り組む体制を整備する。	良好	優れた点
3-1-2-3	地域社会との交流を促進し、大分県及び県内全ての地方自治体との協力協定を実質的に推進することによって地域の活性化に寄与する。	おおむね良好	特色ある点
3-1-2-4	産学連携活動によって、地域社会を担う中核的人材の育成を促進する。	おおむね良好	
3-1-2-5	地域の公私立大学等との研究上の連携を深め、中核大学としての役割を果たす。	おおむね良好	
3-1-2-6	福祉に関して、地域並びに国内外、特にアジア諸国の教育・研究機関との連携を強化する。	おおむね良好	
② 国際化に関する目標		おおむね良好	
国際社会に開かれた大学として、海外の大学等との多様な連携・協力・支援関係を強化し、国際交流を推進する。		おおむね良好	
3-2-1-1	アジア諸国をはじめとする国・地域などに留意しつつ、優秀な留学生の戦略的な受入れを推進し、卒業後のフォローアップについても強化を図るなど体系的な留学生受入れ体制を確保するとともに、学生の海外留学を積極的に推進し、国際教育を向上させる。	おおむね良好	
3-2-1-2	教員等の研究者の海外派遣をより一層推進するとともに、海外の大学等からの研究者を積極的に受入れ、海外の大学との研究上の交流を強化する。	おおむね良好	
3-2-1-3	アジア諸国をはじめとする途上国の人材育成支援、開発協力などによる国際的貢献活動に積極的に参加する。	おおむね良好	